

漁場効果調査

向野幹生（企画情報部）

1 目的

水産基盤整備事業に係る事業評価および今後の事業推進に資するため、魚礁漁場における漁獲量等の漁場効果を明らかにする。

2 方法

1) 熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

調査対象の中層浮魚礁は、I 礁（白浜町市江崎沖）、SU 礁（すさみ町江須崎沖）、S 礁（串本町潮岬沖）、KU 礁（串本町檜野崎沖）、K 礁（太地町梶取崎沖）の合計 5 カ所で（図 1）、和歌山南漁協（本所・すさみ支所）、和歌山東漁協（串本支所・古座支所・浦神支所）と宇久井漁協に所属する曳縄釣漁業者 14 隻により標本船調査を実施した。調査期間は、曳縄釣漁業が盛期となる 3～5 月の春漁を主体とした。なお、調査は 4～5 月および翌年 3 月に実施しているが、結果については暦年で取りまとめた。

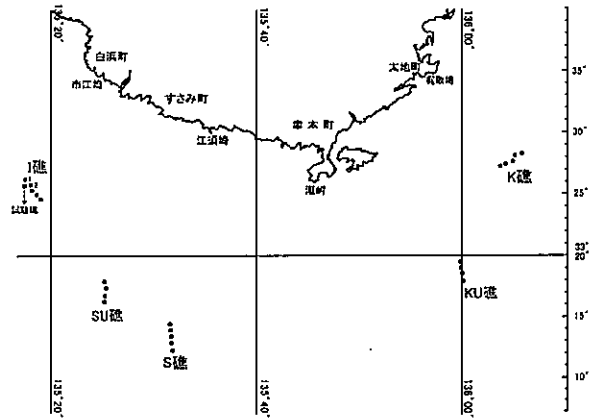


図 1 中層浮魚礁の設置位置

2) 御坊地区大型魚礁（御坊市名田町沖合）

御坊市名田町沖合へ H13 年度に設置された大型魚礁を対象として、紀州日高漁協本所に所属し、対象魚礁を利用している漁業者により標本船調査を実施した。調査は 4～3 月の期間実施し、結果については年度で取りまとめた。

3) 日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

白浜町日置沖合へ H20 年度に設置された大型魚礁を対象として、和歌山南漁協日置支所の職員が市場に水揚げした漁業者の操業場所を聞き取り、対象魚礁で操業した漁船の水揚げデータを収集した。調査は 4～3 月の期間実施し、結果については年度で取りまとめた。

3 結果及び考察

1) 熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

標本船は、延べ 448 隻操業し、カツオ 11.5 トン、その他（ビンナガやキハダ他）4.3 トンを漁獲した。このうち中層浮魚礁での利用延べ隻数と漁獲状況を表 1 に示す。中層浮魚礁では、延べ 64 隻操業し、カツオが 0.6 トン、その他が 0.2 トン漁獲された。

曳縄釣による調査期間中の 3 漁協全体の漁獲量は、カツオが 269 トン、その他が 189 トンで合計 458 トンと不漁であった。

この結果をもとに、漁協別標本船での漁獲率（中層浮魚礁での漁獲量/全漁獲量）から推定した、漁協別の中層浮魚礁での漁獲量を表 2 に示す。中層浮魚礁全体では、カツオが 8.1 トン、その他が 6.7 トン漁獲され、調査期間中の 3 漁協全体に占める中層浮魚礁での漁獲率はカツオが 3.0%、その他が 3.5%となった。

2) 御坊地区大型魚礁（御坊市名田町沖合）

大型魚礁では、4～5 月を中心に利用され、イサキが一本釣で 9 kg、遊漁で 8 kg 漁獲された。その他にマアジが一本釣で 110 尾、遊漁で 20 尾釣獲された。

表 1 中層浮魚礁の利用延べ隻数と各魚種の漁獲量

利用魚礁域	利用延べ隻数	カツオ	その他
I礁	5隻	24kg	10kg
SU礁	21隻	145kg	25kg
S礁	26隻	166kg	60kg
KU礁	12隻	253kg	76kg
K礁	0隻	—	—

表 2 中層浮魚礁における推定漁獲量

利用魚礁域	利用船の所属漁協・支所名	カツオ	その他
I礁	和歌山南漁協本所・すさみ支所	233kg	113kg
SU礁	和歌山南漁協すさみ支所	1,855kg	279kg
S礁	和歌山南漁協すさみ支所	2,130kg	676kg
KU礁	和歌山東漁協串本支所・古座・浦神支所、宇久井漁協	3,888kg	5,625kg
K礁	—	—	—

3) 日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

大型魚礁では、一本釣で4月にマダイが0.7トン、6月にイサキが1.5トン、7～8月にカンパチが0.8トン、3月にマダイが0.7トン水揚げされた。年間を通じては、マダイが1.7トン、イサキが1.6トン、カンパチが1.1トン、その他魚種（ブリ等）が0.5トン水揚げされ、一本釣の出漁隻数2,208隻のうち719隻（32.6%）の利用があった。調査を開始した前年度と比較すると、イサキが約50%減少したが、夏季を主体にカンパチの漁獲が増加した。